



学校法人
鎌倉女子大学

初等部入学式でのご父母へのお話から

—初等部入学式式辞より平成18年4月7日（金）—

ご父母の皆さま、おめでとうございます。鎌倉女子大学初等部に信頼をお寄せ下さり、大切なご子弟をお預け下さいまして、教職員一同、身の引き締まる思いであります。確かにお預かりし、6年後に一層逞しくなったお子さんをご父母の皆さまにお返ししたいと思います。

しかし、そうは申しましても、皆さまのご理解・ご協力、ご父母の皆さまとの連携がなければ、教育はよく成り立つものではありません。あらゆる場合において、教育を成功へと導くものは、「親と子と先生の三位一体」の信頼・協力関係にこそあると考えます。

特に今日、子どもを抱えもつ各ご家庭がもっとも心を配ることは、子どもたちを取り巻く安全な、安心出来る環境の確保ではないでしょうか。残念ながら、私たちの生活世界は、街中も郊外もネットといわれる媒体によって子ども部屋の中までも昔とは様変わりしてしまいました。今日ほど、学校と家庭が連携して子どもを守りながら育てていかななくてはならない時代もまたないと思えます。

どうぞ何事につけ、遠慮なく先生方をお訪ね下さい。相談もして下さい。初等部の鈴木部長以下、施設を整え、カリキュラムを工夫し、お子さんたちを迎える準備をしてみました。

これから子どもたちは、大きく大きく成長していかなければなりません。子どもたちは、親や先生も、そして当の子ども自身ですら当然気づいていない能力を秘め、私たちが予想もしないほどの可能性を発揮するものです。今は小さい子どもたちですが、将来何を成し遂げるのか、本当に楽しみなことです。

ですから、大切なことは、私たち親や教師が、早くからこの子の個性はこうなのだと決めてかからないことだと思います。その意味で、私は、軽々に「個性尊重」という言葉を使おうとは思いません。子どもの個性など、そう簡単に分かるものでも、決められるものでもないからです。

むしろ、人間の個性はどのようにして開発され、豊かさを増していくのか、それは、知識であれ、体験であれ、人と人との出会いであれ、出来るだけ子ども達に物事との多様な触れ合いの機会を提供してやることだと思っております。

そこで思い出すのは、日本の世界的な映画監督として、ハリウッドが競ってその作品をリメイクしたといわれる、どなたも知っている黒澤明さんのことです。黒澤さんは、「あなたの創造力の源泉は何ですか」と問われて、こう答えたといひます。それを聞いて、私は、さすがにこの人は本物だと思いました。黒澤さんは、「あなたの創造力の源泉は」、と問わ

れて、「類い稀な私の個性にある」とも、「人一倍鋭敏な私の感性にある」ともいいませんでした。芸術家などは、ともすると、そういたがるものですが、彼は、そうはいわなかったのです。そうではなく、黒澤さんは、「それは、記憶にある」といいました。シェークスピアや山本周五郎や芥川龍之介や、彼の創造性は、彼の蓄積された豊富な知識から産み出されたものなのです。知識が豊富でない人からは、アイディアは生まれてこないのであり、独創といわれるものは、実は知識と知識の組み合わせ、類推^{アナロジー}から生まれてくるものなのです。

このことは、私たちに、教えるべきものは教えなければならない、培うべきものは小さい頃から培っておかなければならない、そのことは、自由で個性的な創造性を引き出すためにも極めて大切なのだということを教えてくれます。

当然のことながら、子どもたちは、日々天衣無縫、多様な関心を示します。無論、その関心の表出は、最大限尊重してやって頂きたいと思います。そのあどけない関心の表明が将来どんなに大きな稔りをもたらすかも知れません。しかし、その関心の表出を親や教師が、「あ、この子の個性はそうなのだ」と、それを性急にその子の個性と見做して、大きな可能性をもった子どもたちを小さくくくりこむことは罪悪だとさえ思っております。

ですから、先程も子どもたちにも申しましたが、大切なことは、小学校時代、何といっても丈夫な身体を作り、人間としての振舞い方をしっかりと培い、豊富な知識にも触れさせ、勉強というものが面白いものだ、物が解っていくということは楽しいことなんだと感じさせ、やがて子ども一人ひとりが天から授かった個性を最大限発揮出来るような「個性発揚」の教育を行うことだと思います。

本学の教育活動は、教室で、グラウンドで、見学会や遠足で、こうした生きる力・学ぶ力がしっかりと身につくようなカリキュラムとなっています。

先生方も、終始研究会を開き、教材開発を試み、毎年研究論集も作成し、先生方自身が自ら成長しようという意気に燃えています。

教育は、教える者と教えられる者の切磋琢磨だと思います。そのことは、こうした初等教育段階においても、いささかも変わりはありません。どうぞご父母の皆さまも、それぞれのお立場で私達の教育活動にご支援をお寄せ下されば、幸いに存じます。

[>前のページへ戻る](#)